

平成 27 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

美 唄 市 調 査 結 果

自己実現を図る美唄市の子どもたちの育成を目指して

平成 2 7 年 1 2 月
美 唄 市 教 育 委 員 会

■はじめに

本資料は、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における美唄市の調査結果を踏まえ、市内の経年変化や、全道・全国との比較等について、北海道教育委員会の作成資料を参考に取りまとめ、平成26年度より発行しています。

目 次

1	調査の概要	1
2	実技に関する調査	
(1)	小学校	
①	体力合計点	2
②	調査項目ごとの状況	3 ~ 4
③	[H27美唄市] と [H25~26美唄市・H27北海道・H27全国] との対比	5
(2)	中学校	
①	体力合計点	6
②	調査項目ごとの状況	7 ~ 8
③	[H27美唄市] と [H25~26美唄市・H27北海道・H27全国] との対比	9
3	体格と肥満度に関する調査	10
4	児童生徒質問紙調査	
(1)	小学校	11 ~ 14
(2)	中学校	15 ~ 18
5	学校質問紙調査	
(1)	小学校	19
(2)	中学校	20
6	美唄市の学校・家庭等が取り組む方向性	
(1)	学校での取組の方向性	21
(2)	家庭での取組の方向性	21

1 調査の概要

(1)調査の目的

- 子どもの体力等の状況に鑑み、全市的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全道・全国的な状況との関係において、自らの子どもの体力の向上に係る成果と課題を把握、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルの確立を目指す。
- 各学校が児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2)調査の対象

- 市内小学校第5学年の全児童
- 市内中学校第2学年の全生徒

(3)調査の内容

① 児童生徒に対する調査

- ・実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、
20mシャトルラン（中学校は20mシャトルランに替えて持久走も可）、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）
- ・質問紙調査

② 学校に対する質問紙調査

(4)調査の方法

- 悉皆調査

(5)調査の実施期間

- 平成27年4月から平成27年7月までの期間で実施

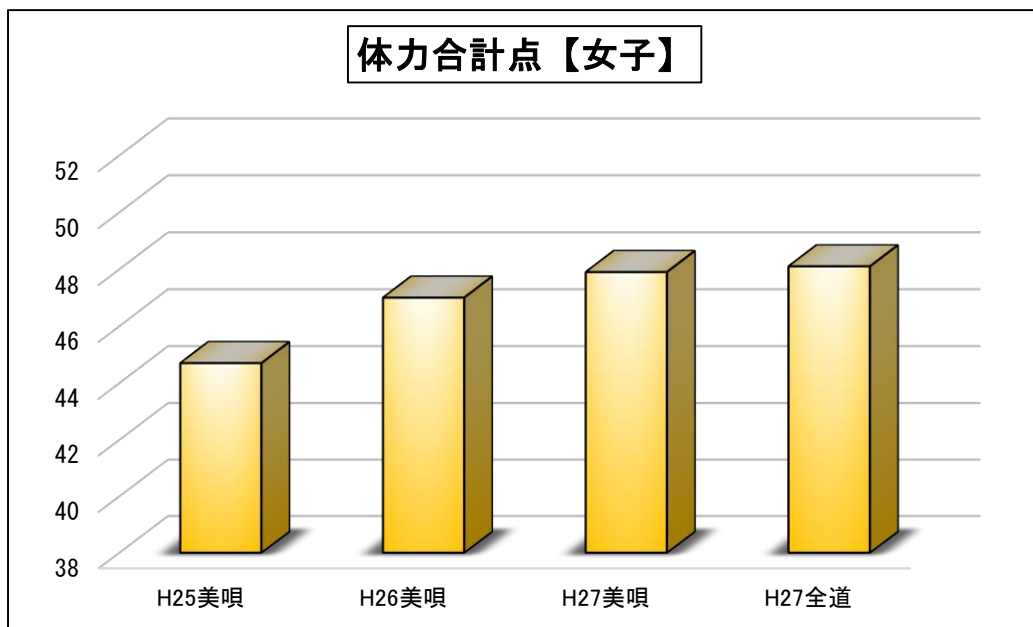
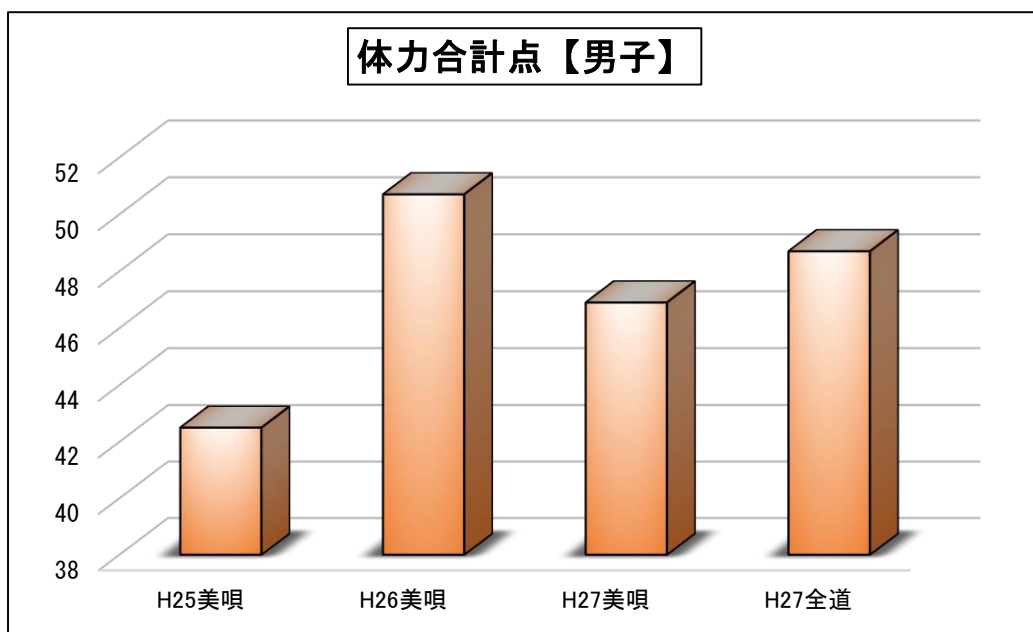
(6)調査対象学校数・児童生徒数

- 小学校 5校 125名（男子64名、女子61名）
- 中学校 4校 168名（男子88名、女子80名）

2 実技に関する調査

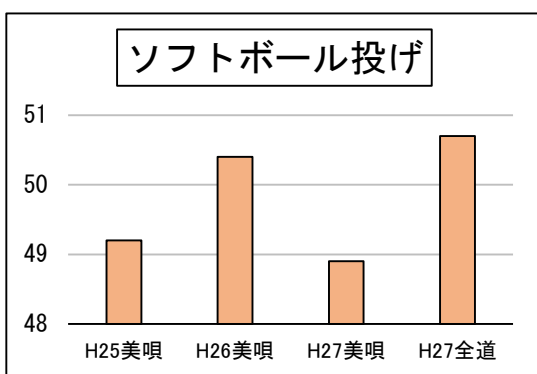
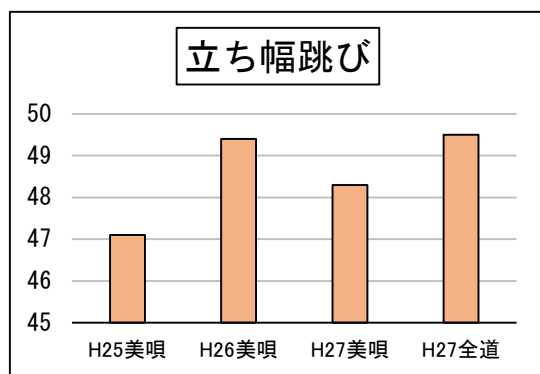
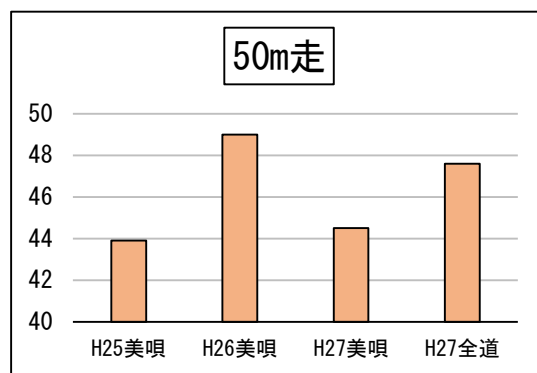
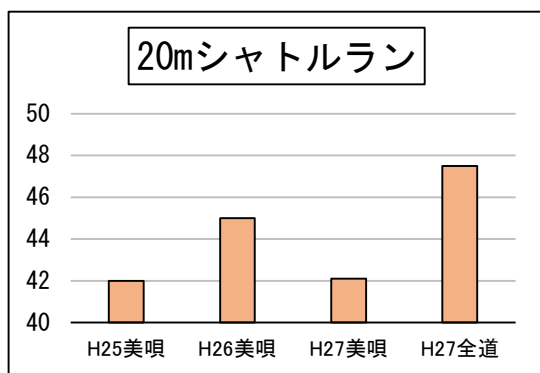
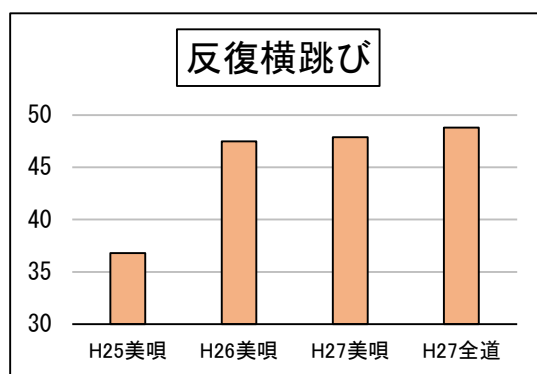
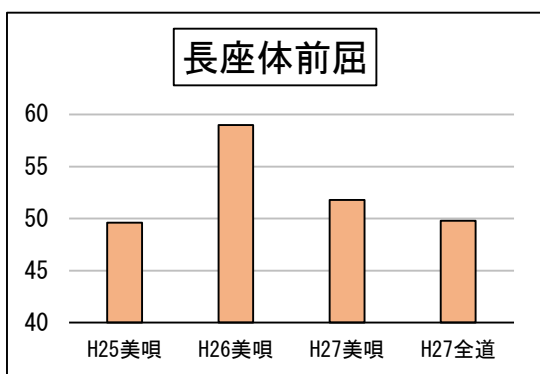
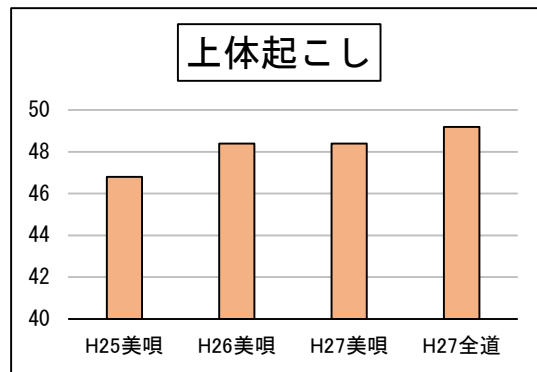
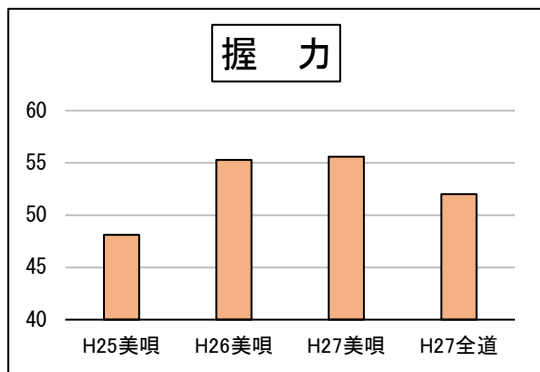
(1) 小 学 校

- ① 体力合計点【グラフの「50」がH27 全国平均値を示しています】

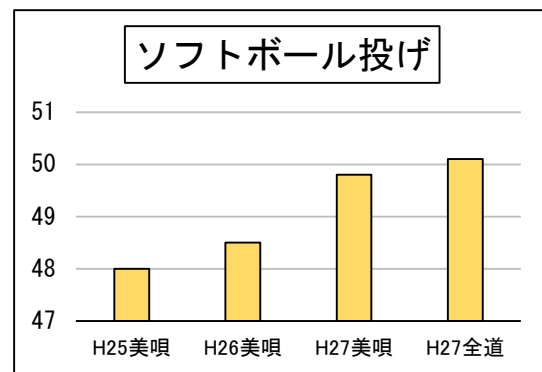
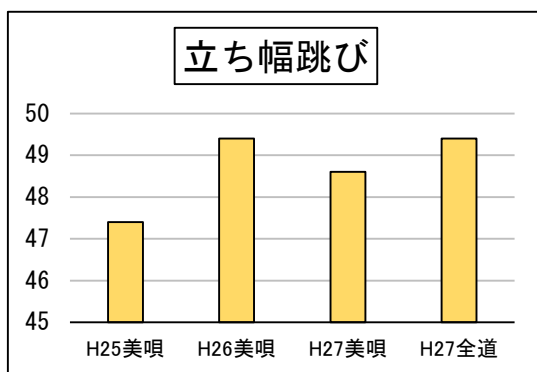
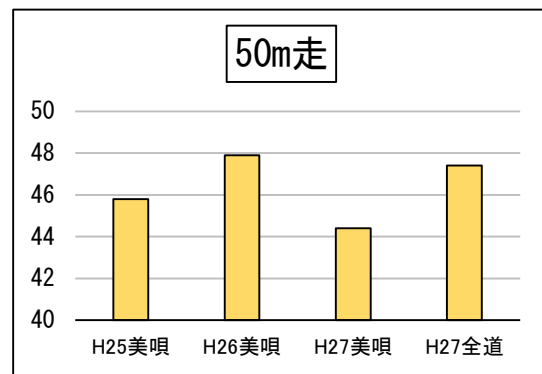
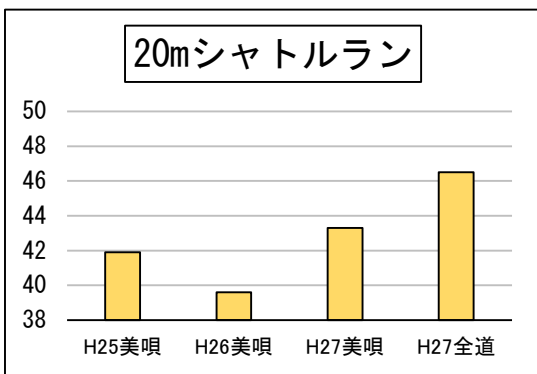
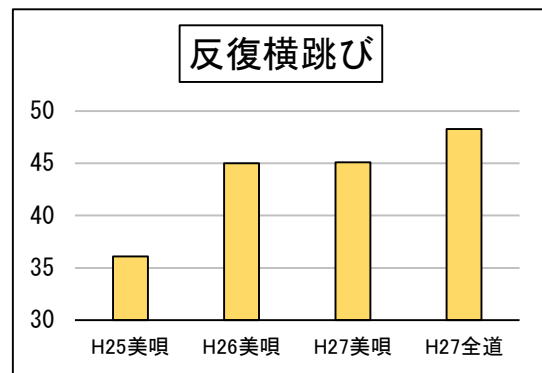
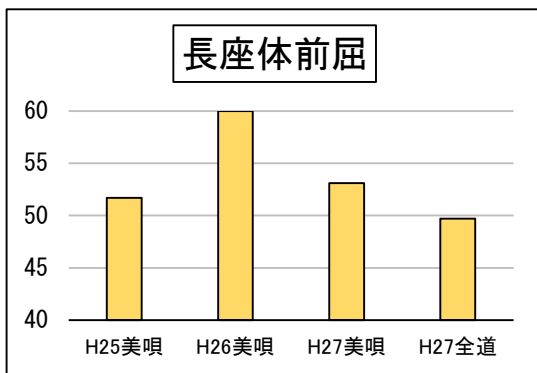
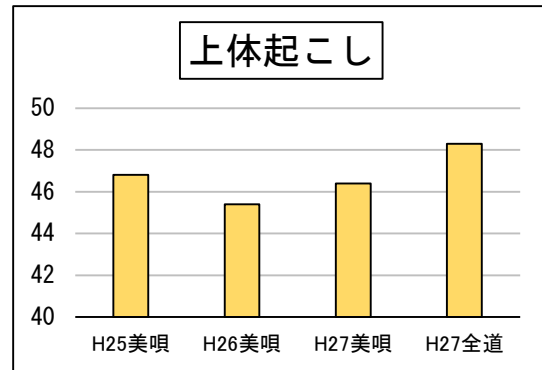
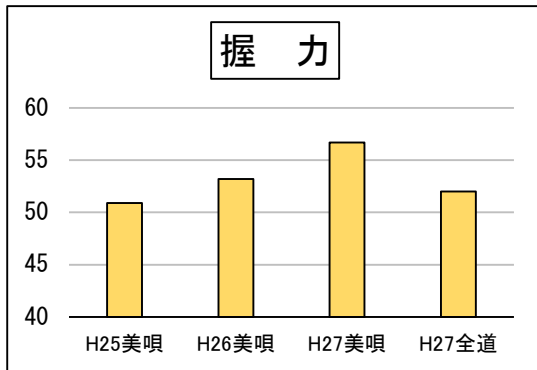


② 調査項目ごとの状況【グラフの「50」がH27 全国平均値を示しています】

◆ 男 子 ◆



◆ 女 子 ◆



③ [H27 美唄市] と [H25～26 美唄市・H27 北海道・H27 全国] との対比

小 学 校 【 男 子 】					小 学 校 【 女 子 】				
	対25美唄	対26美唄	対27全道	対27全国		対25美唄	対26美唄	対27全道	対27全国
体力合計点	やや高い	やや低い	ほぼ同様	やや低い	体力合計点	やや高い	同 様	同 様	ほぼ同様
握力	高 い	同 様	やや高い	高 い	握力	高 い	やや高い	やや高い	高 い
上体起こし	ほぼ同様	同 様	同 様	ほぼ同様	上体起こし	同 様	やや高い	ほぼ同様	やや低い
長座体前屈	ほぼ同様	低 い	ほぼ同様	ほぼ同様	長座体前屈	ほぼ同様	低 い	やや高い	やや高い
反復横跳び	高 い	同 様	同 様	ほぼ同様	反復横跳び	高 い	同 様	やや低い	やや低い
20mシャトルラン	同 様	ほぼ同様	低 い	低 い	20mシャトルラン	ほぼ同様	やや高い	やや低い	低 い
50m走	同 様	やや低い	やや低い	低 い	50m走	ほぼ同様	やや低い	やや低い	低 い
立ち幅跳び	ほぼ同様	ほぼ同様	ほぼ同様	ほぼ同様	立ち幅跳び	ほぼ同様	同 様	同 様	ほぼ同様
ソフトボール投げ	ほぼ同様	ほぼ同様	ほぼ同様	ほぼ同様	ソフトボール投げ	ほぼ同様	ほぼ同様	同 様	同 様

* 差が1ポイント未満→【同様】

* 差が3以上5ポイント未満→【やや高い、やや低い】

* 差が1以上3ポイント未満→【ほぼ同様】

* 差が5ポイント以上→【高い、低い】

結 果 の 概 要

【小学校男子】

- ・「体力合計点」は、全道との比較においてほぼ同様であり、全国との比較においてやや低い状況にある。また、平成25年度と比較してやや高く、平成26年度と比較してやや低くなっている。
- ・種目別で全国より高いのは「握力」であり、低いのは「20mシャトルラン」と「50m走」である。他の5種目は、ほぼ同様となっている。
- ・種目別における対全道比では、「握力」がやや高くなっているものの、「50m走」でやや低く、「20mシャトルラン」において低い状況にある。

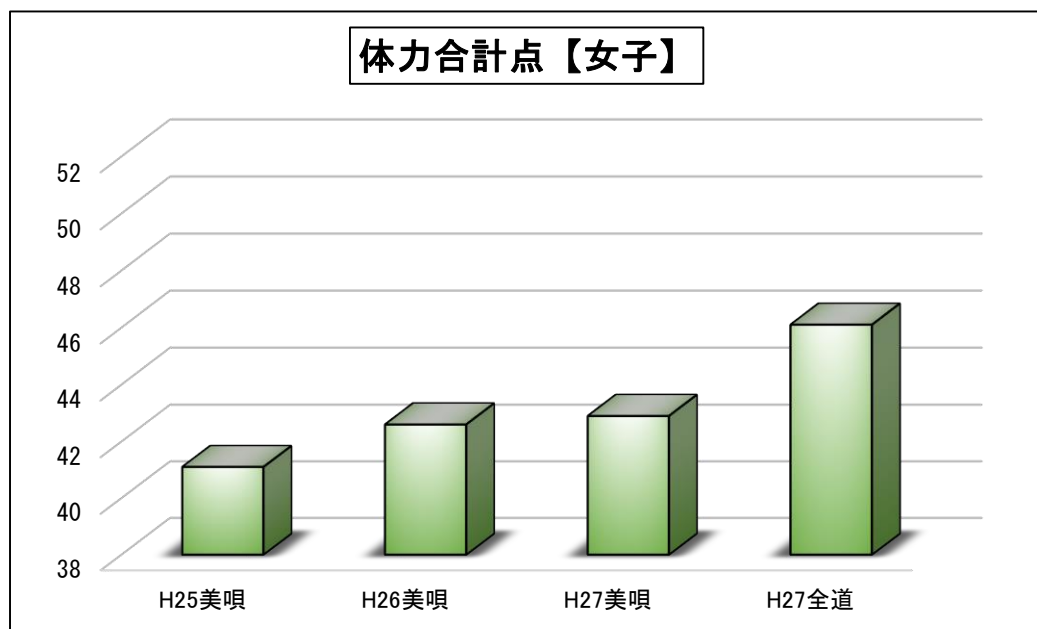
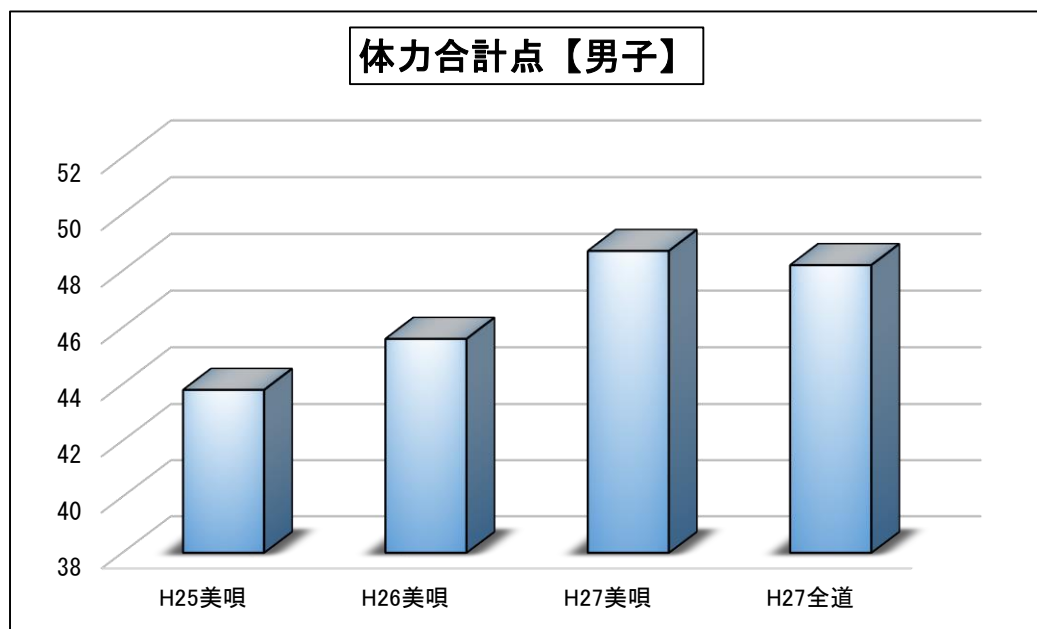
【小学校女子】

- ・「体力合計点」は、全道との比較において同様であり、全国との比較においてほぼ同様となっている。また、平成25年度と比較してやや高く、平成26年度と比較して同様である。
- ・種目別で全国より高いのは「握力」であり、低いのは「20mシャトルラン」と「50m走」である。他の5種目は、やや高いからやや低いまでばらつきがある。
- ・種目別における対全道比では、「握力・長座体前屈」がやや高くなっているものの、「反復横跳び・20mシャトルラン・50m走」でやや低い状況にある。

➡ 「握力・長座体前屈」については、全道・全国の平均を上回っており、定着が図られている。昨年度の結果を踏まえ、今年度の課題としていた「50m走・20mシャトルラン」について、上昇が見られたのは、女子の20mシャトルランのみにとどまっている。また、美唄市3年間の経年変化では、男女共に平成25年度と比べてほとんどの種目で上回っているが、平成26年度との比較においては、男子が半数以上に当たる5種目で平均値を下げている。

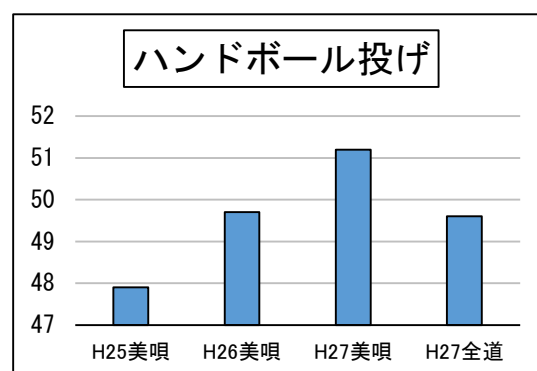
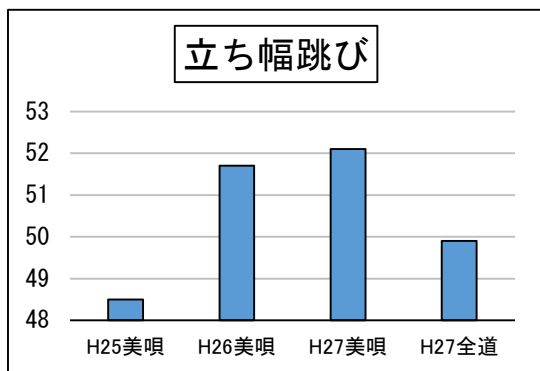
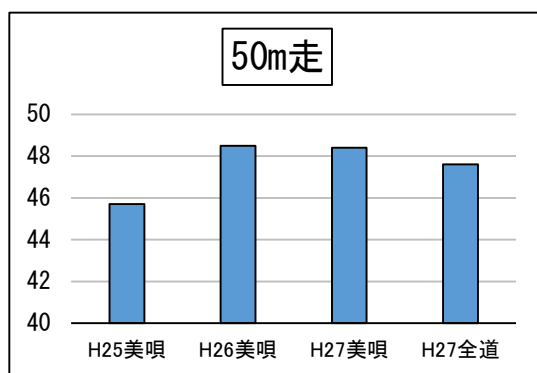
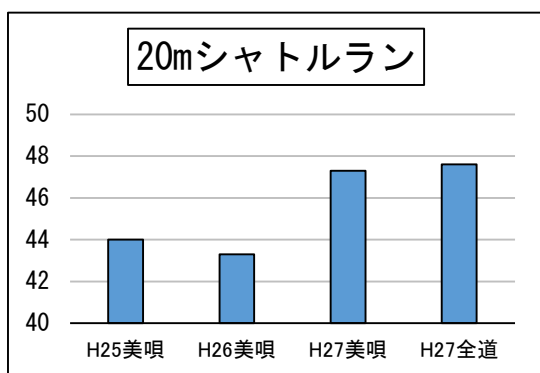
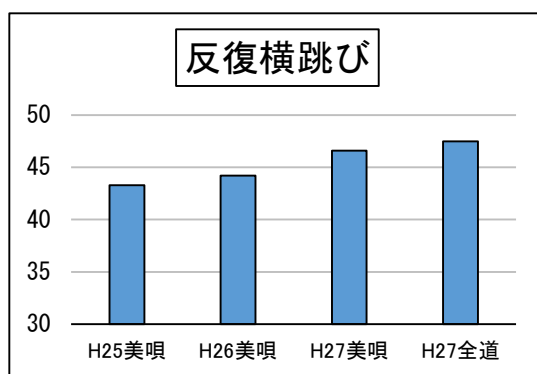
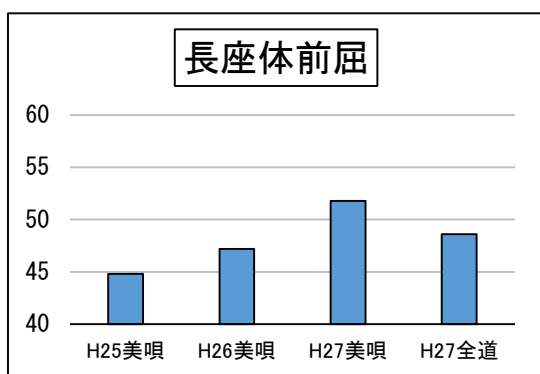
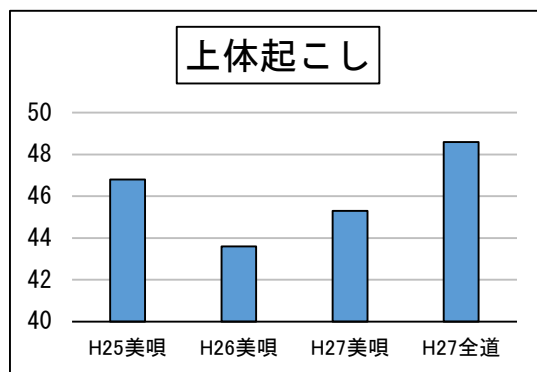
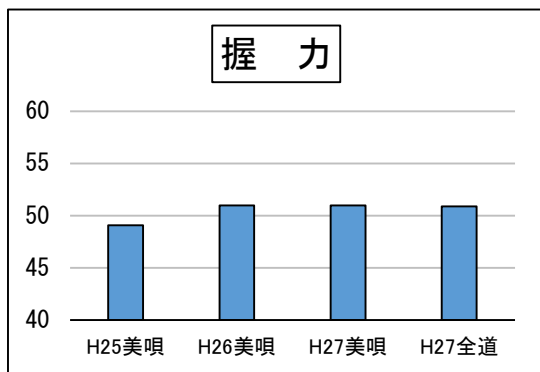
(2) 中 学 校

- ① 体力合計点【グラフの「50」がH27全国平均値を示しています】

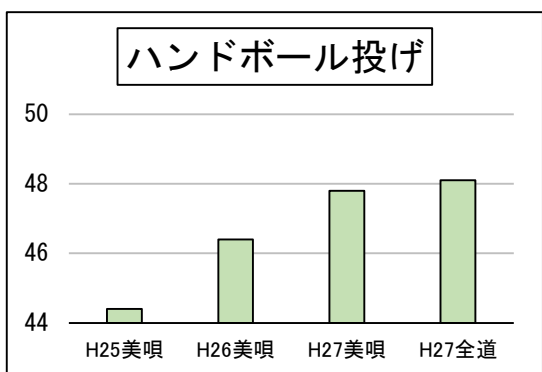
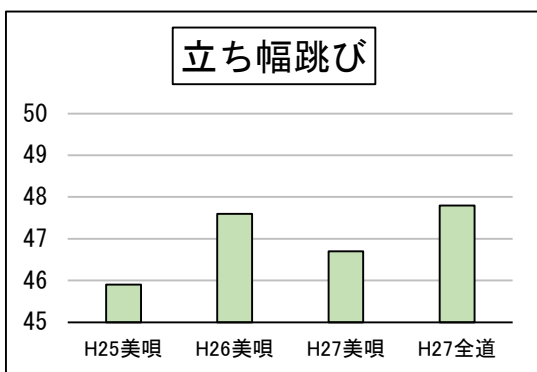
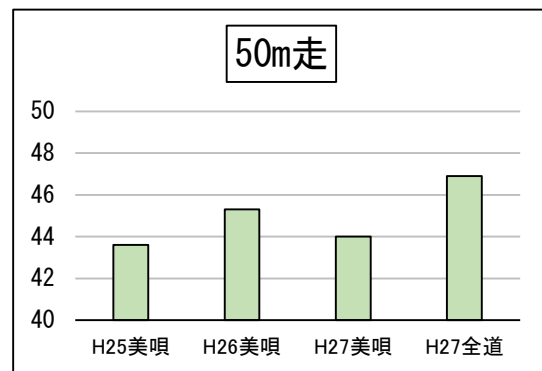
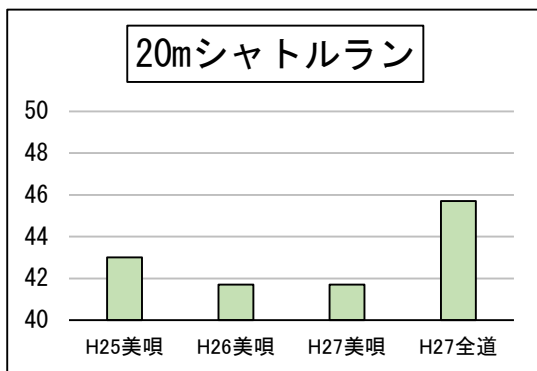
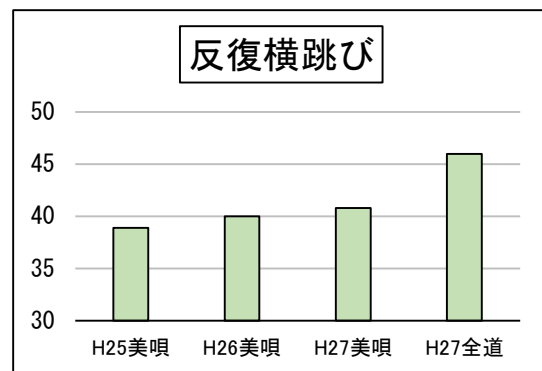
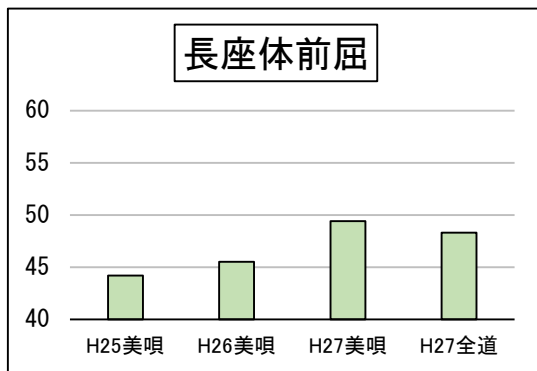
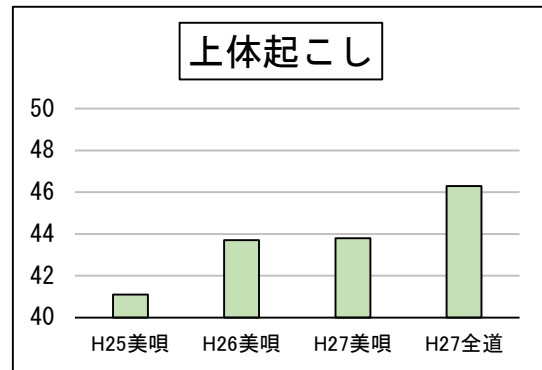
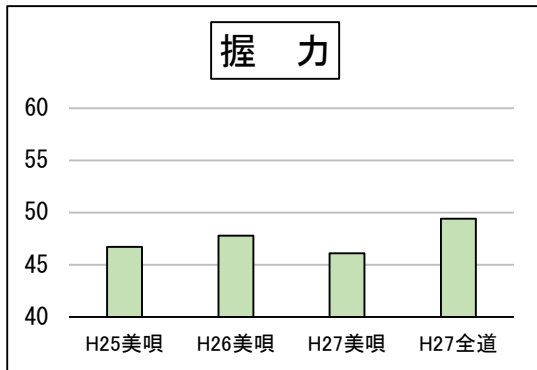


② 調査項目ごとの状況【グラフの「50」がH27 全国平均値を示しています】

◆ 男 子 ◆



◆ 女 子 ◆



③ [H27 美唄市] と [H25～26 美唄市・H27 北海道・H27 全国] との対比

中学校【男子】					中学校【女子】				
	対25美唄	対26美唄	対27全道	対27全国		対25美唄	対26美唄	対27全道	対27全国
体力合計点	やや高い	やや高い	同 様	ほぼ同様	体力合計点	ほぼ同様	同 様	やや低い	低 い
握力	ほぼ同様	同 様	同 様	ほぼ同様	握力	同 様	ほぼ同様	やや低い	やや低い
上体起こし	ほぼ同様	ほぼ同様	やや低い	やや低い	上体起こし	ほぼ同様	同 様	ほぼ同様	低 い
長座体前屈	高 い	やや高い	やや高い	ほぼ同様	長座体前屈	高 い	やや高い	ほぼ同様	同 様
反復横跳び	やや高い	ほぼ同様	同 様	やや低い	反復横跳び	ほぼ同様	同 様	低 い	低 い
20mシャトルラン	やや高い	やや高い	同 様	ほぼ同様	20mシャトルラン	ほぼ同様	同 様	やや低い	低 い
50m走	ほぼ同様	同 様	同 様	ほぼ同様	50m走	同 様	ほぼ同様	ほぼ同様	低 い
立ち幅跳び	やや高い	同 様	ほぼ同様	ほぼ同様	立ち幅跳び	同 様	同 様	ほぼ同様	やや低い
ハンドボール投げ	やや高い	ほぼ同様	ほぼ同様	ほぼ同様	ハンドボール投げ	やや高い	ほぼ同様	同 様	ほぼ同様

* 差が1ポイント未満→【同様】

* 差が3以上5ポイント未満→【やや高い、やや低い】

* 差が1以上3ポイント未満→【ほぼ同様】

* 差が5ポイント以上→【高い、低い】

結果の概要

【中学校男子】

- ・「体力合計点」は、全道との比較において同様であり、全国との比較においてほぼ同様となっている。また、平成25・26年度と比較してやや高くなっている。
- ・全国より高い種目はなかったが、8種目中6種目においてほぼ同様であり、全国水準に近い状況にある。「上体起こし・反復横跳び」がやや低い状況となっている。
- ・種目別における対全道比では、「長座体前屈」がやや高くなっているものの、「上体起こし」でやや低く、他の6種目については、同様かほぼ同様となっている。

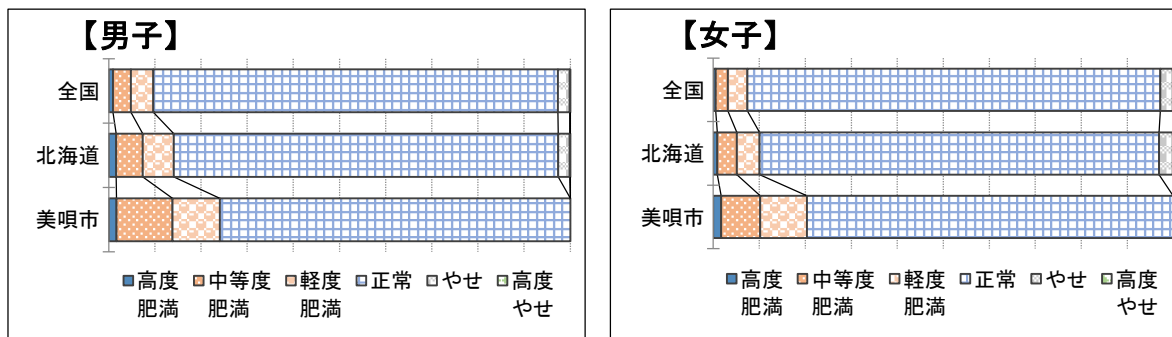
【中学校女子】

- ・「体力合計点」は、全道との比較においてやや低く、全国との比較において低い状況となっており、昨年度と同様の結果である。平成25年度との比較においては、ほぼ同様となっている。
- ・種目別で全国より低いのは「上体起こし・反復横跳び・20mシャトルラン・50m走」の4種目であり、昨年度の結果をさらに下回っている。やや低い2種目を加えて、8種目中6種目において全国との差が開いている。
- ・種目別における対全道比でも、平均値を上回る種目はなかった。

➡ 「握力・長座体前屈」については、小学校の結果と類似した状況にあり、一定程度の定着がうかがえる。また、経年変化では、男子の「上体起こし」を除く7種目、女子の「長座体前屈・上体起こし・反復横跳び・ハンドボール投げ」の4種目において、平成25年からの3年間で着実に伸びてきている傾向がうかがえる。特に、男女に共通するハンドボール投げは、毎年2ポイント近く平均値を上げており、技術面を含めた指導の成果が表れてきている。

3 体格と肥満度に関する調査

(1) 小 学 校



結 果 の 概 要

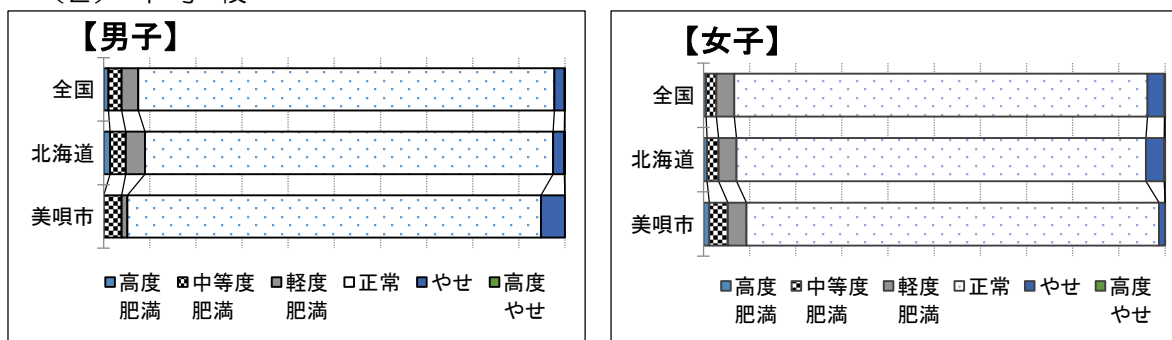
【小学校男子】

- ・全国との比較において、身長は同様であり、体重はやや高い傾向にある。また、全国との比較における肥満傾向は高く、痩身傾向は低くなっている。

【小学校女子】

- ・全国との比較において、身長はほぼ同様であり、体重は高い傾向にある。また、全国との比較における肥満傾向は高く、痩身傾向は低くなっている。

(2) 中 学 校



結 果 の 概 要

【中学校男子】

- ・全国との比較において、身長はやや高く、体重はほぼ同様である。また、全国との比較における肥満傾向・痩身傾向共にほぼ同様である。

【中学校女子】

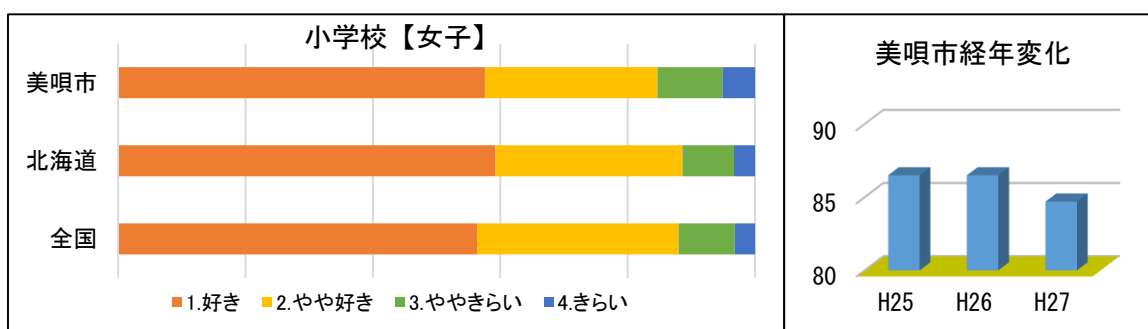
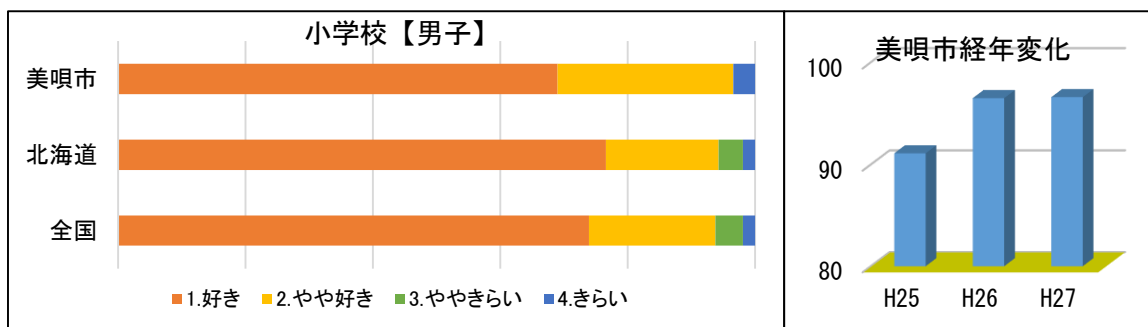
- ・全国との比較において、身長・体重共に同様である。また、全国との比較における肥満傾向はやや高く、痩身傾向はほぼ同様である。

4 児童生徒質問紙調査

(1) 小 学 校

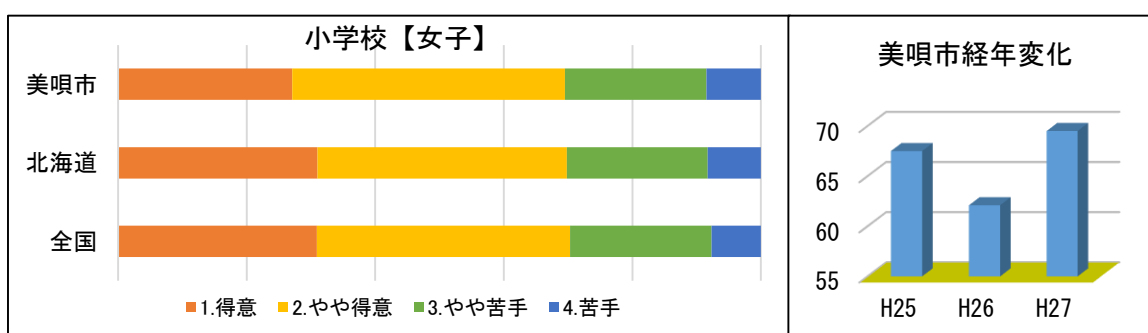
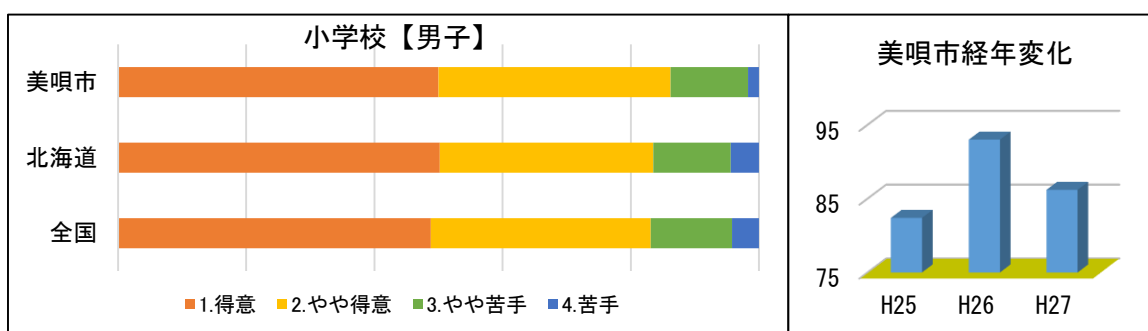
① 運動が好き

※経年変化は、「好き」と「やや好き」の合計で示しています。

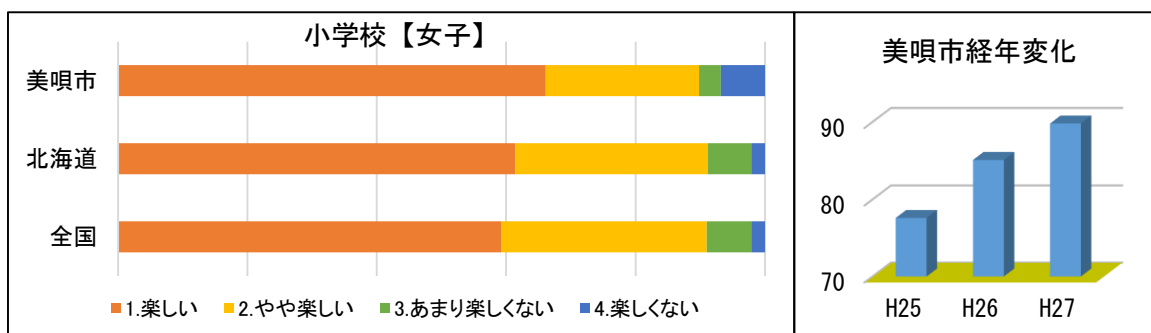
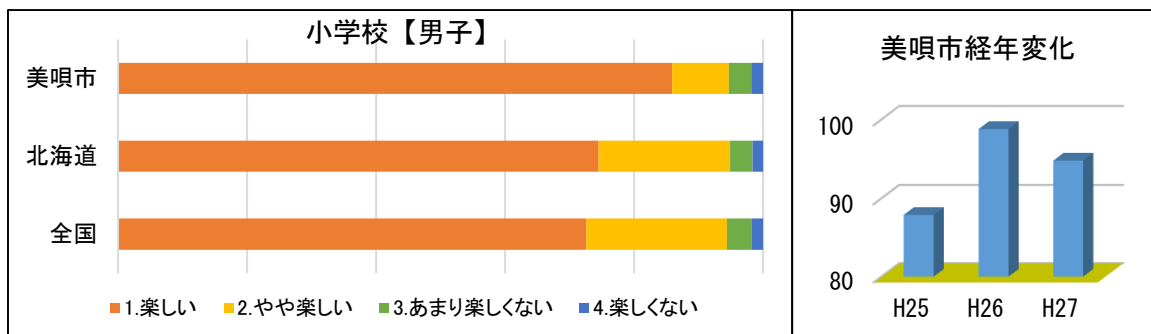


② 運動が得意

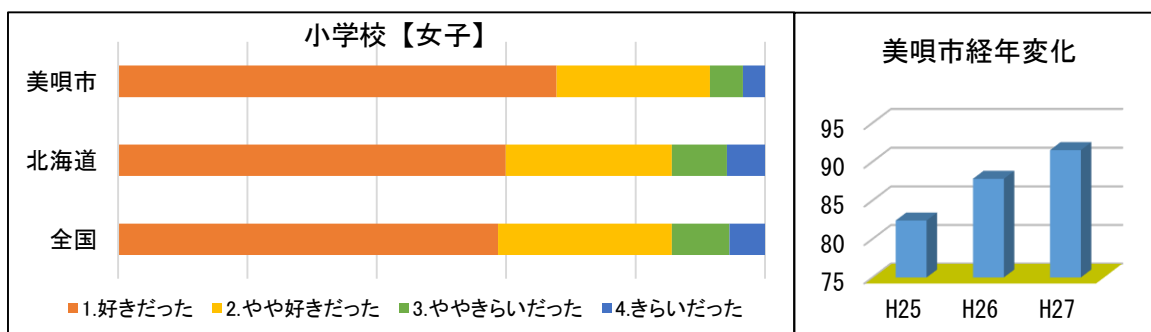
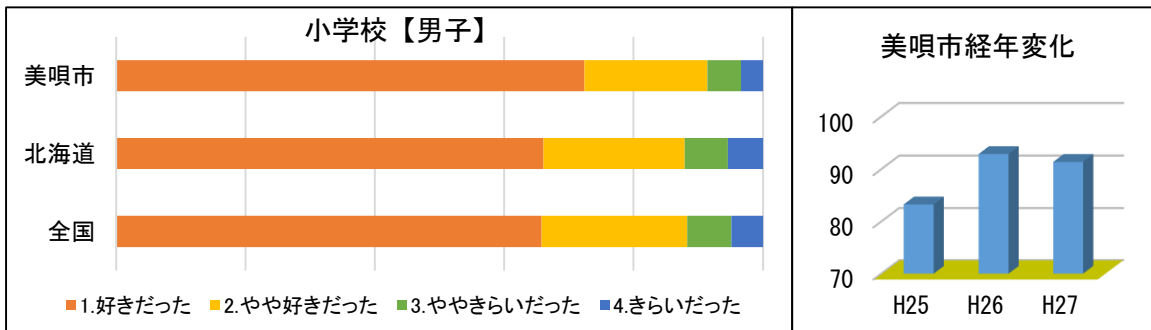
※経年変化は、「得意」と「やや得意」の合計で示しています。



③ 体育の授業は楽しい ※経年変化は、「楽しい」と「やや楽しい」の合計で示しています。

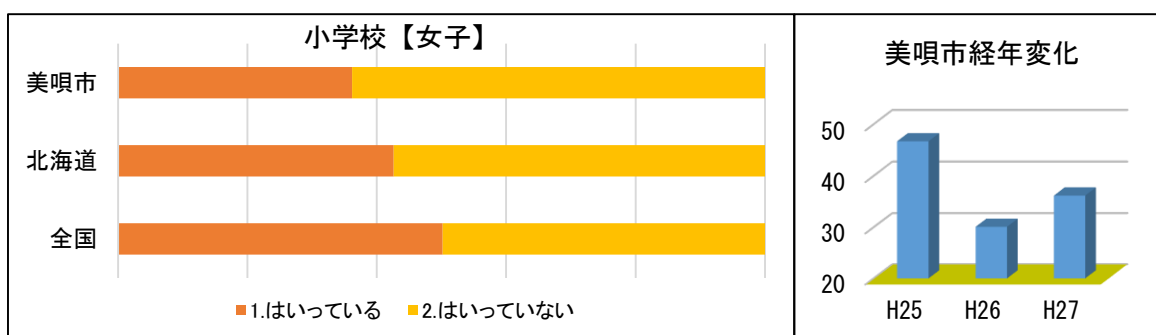
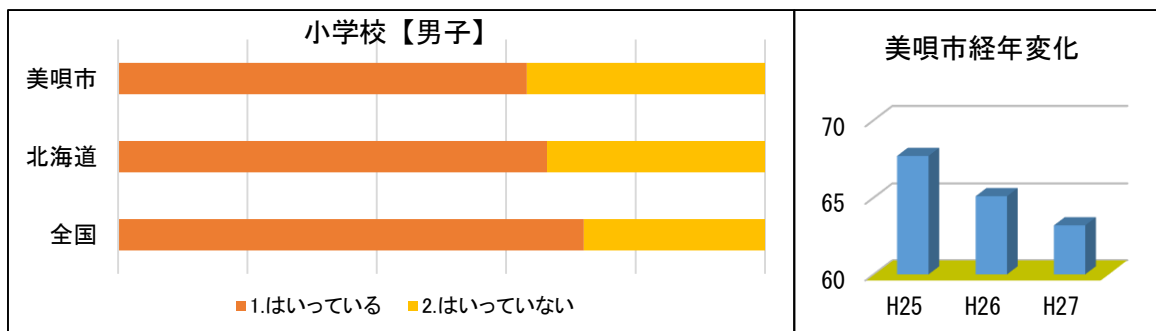


④ 小学校入学前は運動遊びが好き ※経年変化は、「好き」と「やや好き」の合計で示しています。



⑤ 運動部所属

※経年変化は、「はいっている」の割合で示しています。



結果の概要

【小学校男子】

- ・「運動が好き・やや好き」と回答した児童は、全道・全国との比較においてほぼ同様である。また、平成25年度と比較して高く、平成26年度と同様である。
- ・「運動が得意・やや得意」と回答した児童は、全道との比較においてほぼ同様であり、全国よりやや高くなっている。また、平成25年度と比較してやや高いものの、平成26年度より低くなっている。
- ・「体育の授業は楽しい・やや楽しい」と回答した児童は、全道・全国との比較において同様である。また、平成25年度と比較して高く、平成26年度と同様である。
- ・「小学校入学前は運動遊びが好きだった・やや好きだった」と回答した児童は、全道・全国との比較においてやや高くなっている。また、平成25年度と比較して高く、平成26年度とほぼ同様である。
- ・「運動部に所属している」と回答した児童は、全道との比較においてやや低く、全国との比較において低くなっている。また、平成25年度と比較してやや低く、平成26年度とほぼ同様である。

【小学校女子】

- ・「運動が好き・やや好き」と回答した児童は、全道・全国との比較においてやや低くなっている。また、平成25・26年度との比較においてほぼ同様である。
- ・「運動が得意・やや得意」と回答した児童は、全道・全国との比較において同様である。また、平成25年度と比較してほぼ同様であり、平成26年度より高くなっている。
- ・「体育の授業は楽しい・やや楽しい」と回答した児童は、全道・全国との比較においてほぼ同様である。また、平成25年度と比較して高く、平成26年度よりやや高くなっている。
- ・「小学校入学前は運動遊びが好きだった・やや好きだった」と回答した児童は、全道・全国との比較において高くなっている。また、平成25年度と比較して高く、平成26年度よりやや高くなっている。
- ・「運動部に所属している」と回答した児童は、全道・全国との比較において低くなっている。また、平成25年度と比較して低く、平成26年度より高くなっている。

➡「小学校男子」については、昨年度と同様に、運動することを好ましく捉えている傾向がうかがえ、体育の授業も楽しく取り組んでいる児童が多いことが分かる。進んで体を動かすことは、体力づくりや運動習慣を育てる大切な要素であり、今後もこの傾向を継続していくことが求められる。

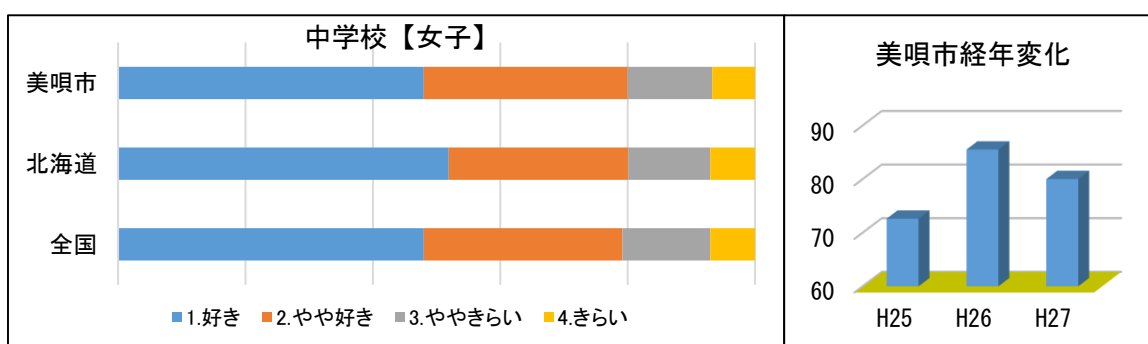
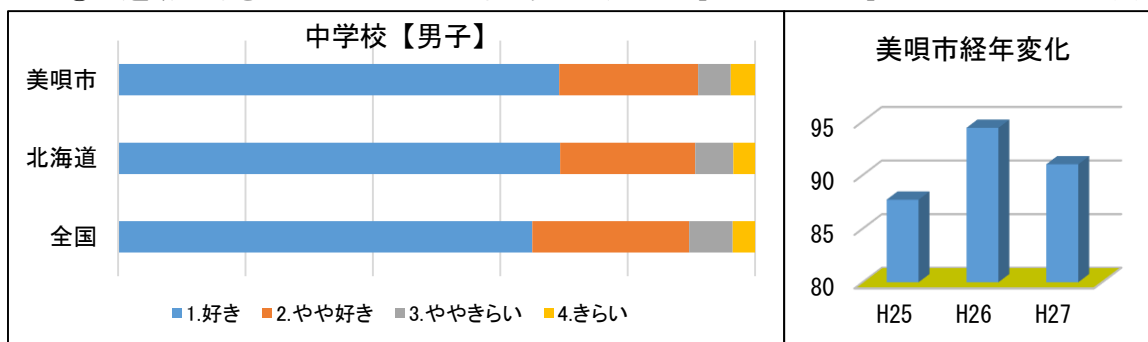
「小学校女子」については、運動への関心が徐々に高まってきており、特に、体育の授業が楽しいと思っている児童が年々増加の傾向にある。これは、小学校入学以前には運動遊びが好きだった児童が高い割合で存在していることとの関連性もうかがえることから、今後も、幼・保・小・中の継続した取組が求められる。

「運動部への所属」については、昨年同様、男女共に対全国比において低い状況が続いている。この要因は様々考えられるが、少年団等での活動に限らず、日常的に体を動かす習慣づくりが必要であり、家庭や地域との連携も視野に入れての取組が求められる。

(2) 中学校

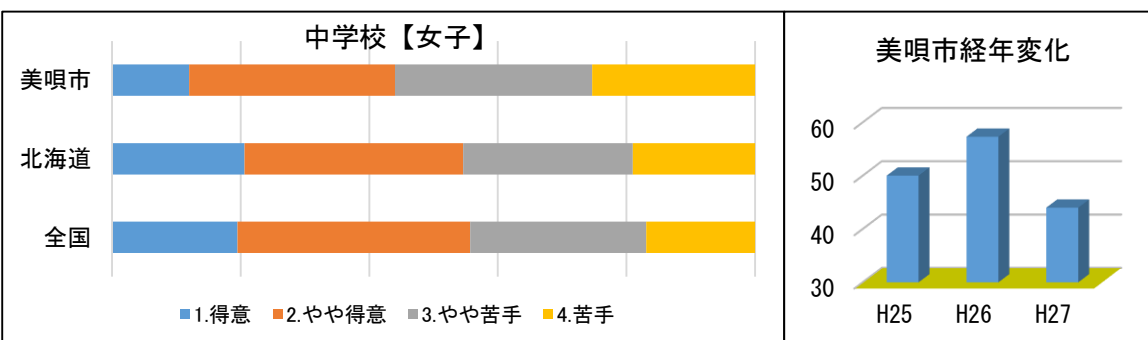
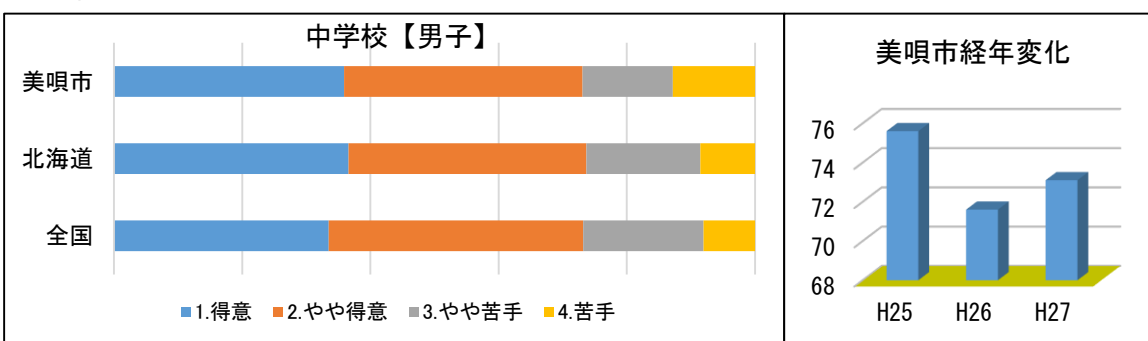
① 運動が好き

※経年変化は、「好き」と「やや好き」の合計で示しています。

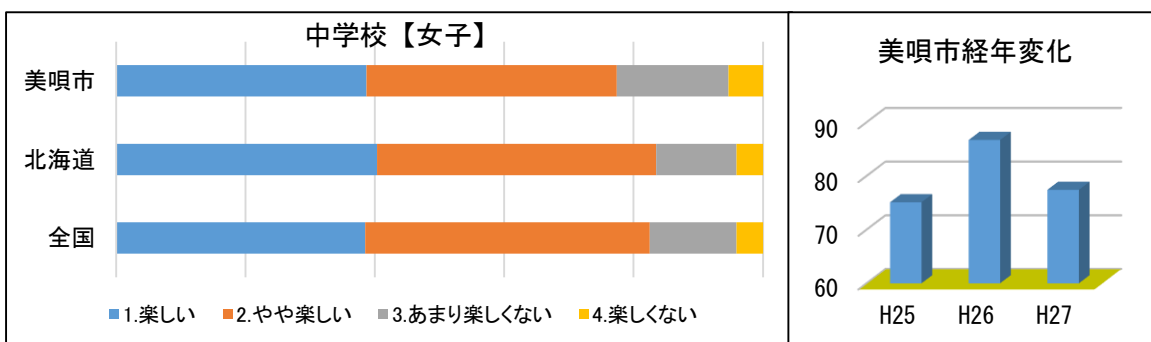
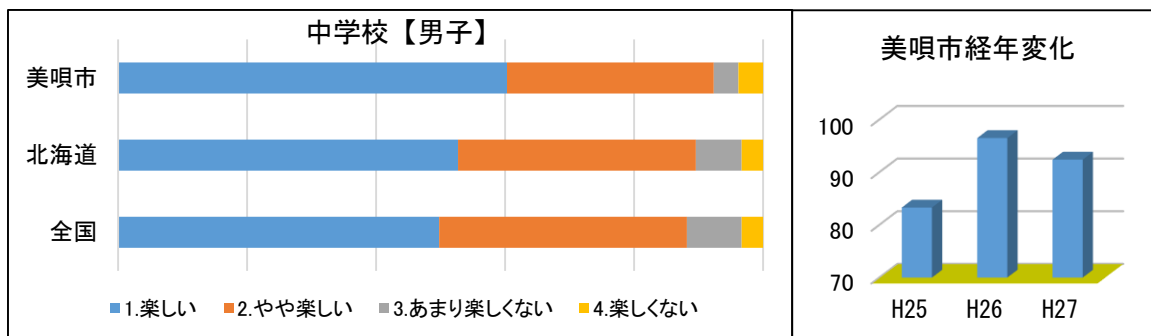


② 運動が得意

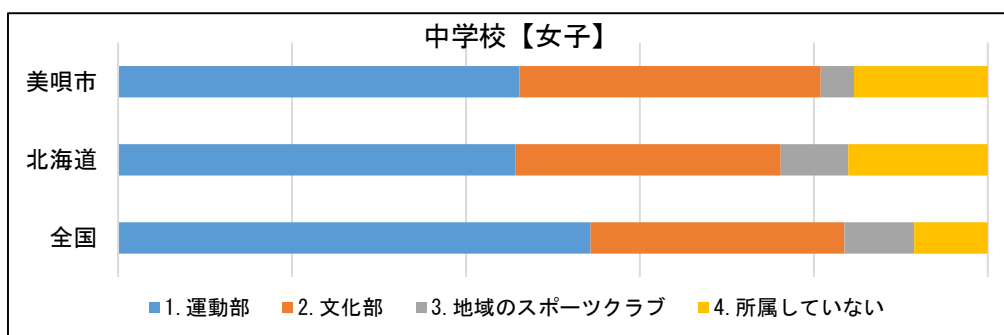
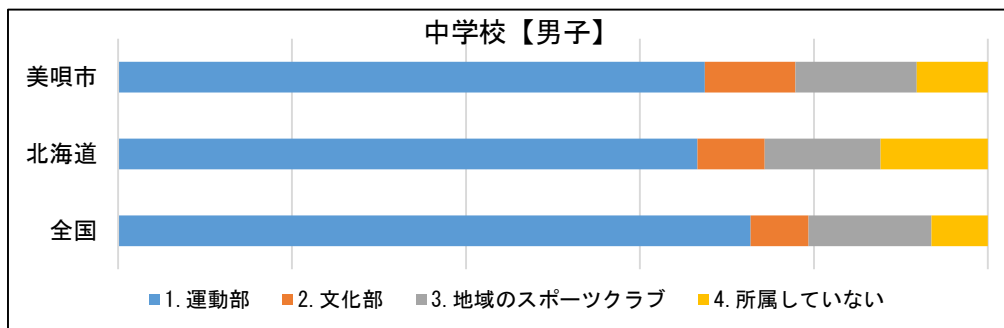
※経年変化は、「得意」と「やや得意」の合計で示しています。



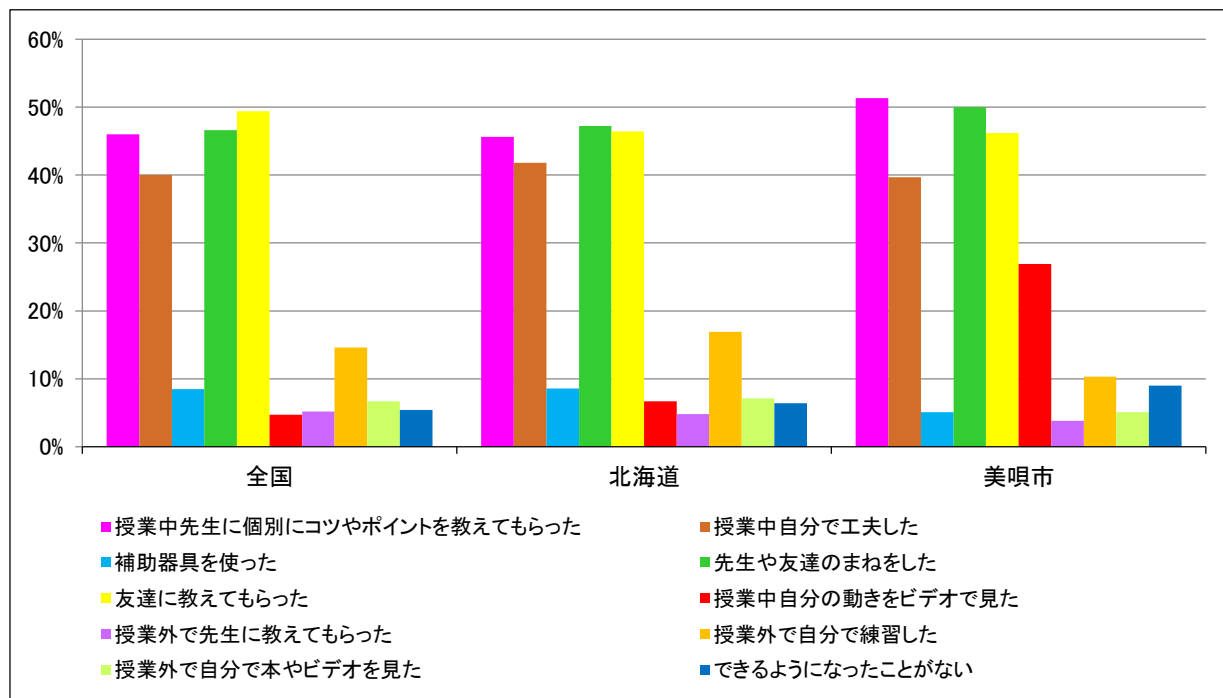
③ 保健体育の授業は楽しい ※経年変化は、「楽しい」と「やや楽しい」の合計で示しています。



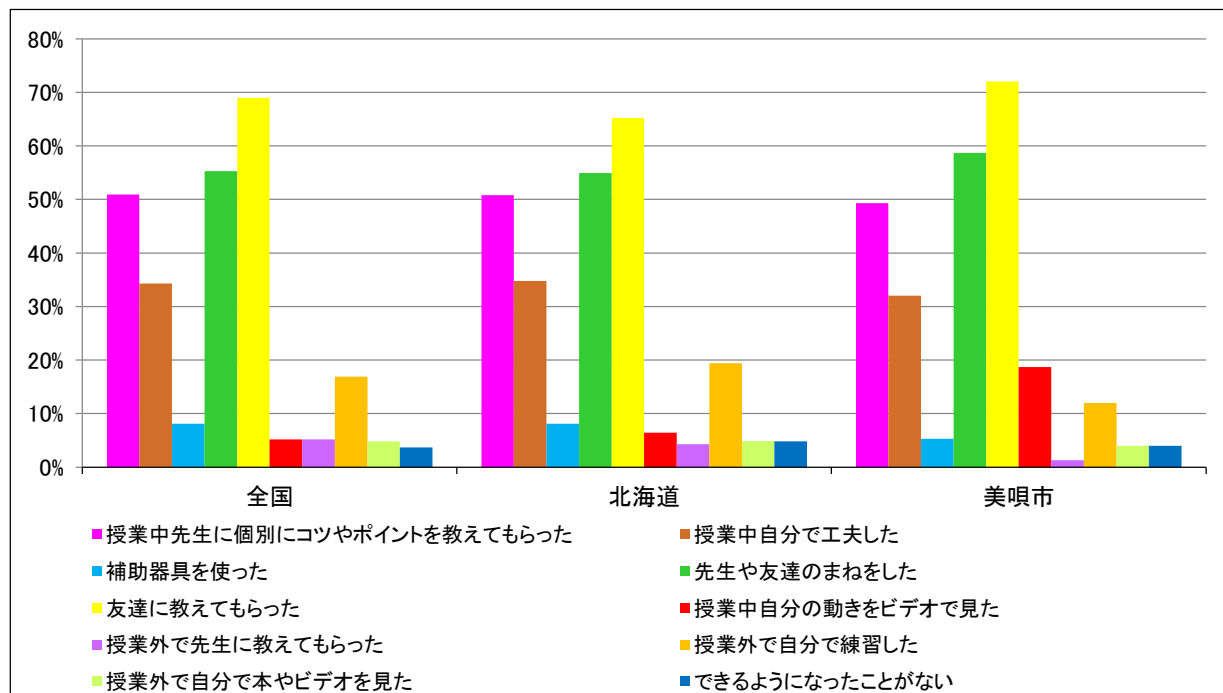
④ 部活等の所属



⑤ 保健体育の授業について、できないことができるようになったきっかけ ※複数回答
中学校【男子】



中学校【女子】



結果の概要

【中学校男子】

- ・「運動が好き・やや好き」と回答した生徒は、全道との比較において同様であり、全国との比較においてほぼ同様である。また、平成25年度と比較してやや高く、平成26年度よりやや低くなっている。
- ・「運動が得意・やや得意」と回答した生徒は、全道・全国との比較において同様である。また、平成25・26年度との比較においてほぼ同様である。
- ・「保健体育の授業は楽しい・やや楽しい」と回答した生徒は、全道との比較においてほぼ同様であり、全国との比較においてやや高くなっている。また、平成25年度と比較して高く、平成26年度よりやや低くなっている。
- ・「部活動（運動部・地域のスポーツクラブ）等に所属している」と回答した生徒は、全道との比較においてやや低く、全国との比較においてほぼ同様となっている。

【中学校女子】

- ・「運動が好き・やや好き」と回答した生徒は、全道・全国との比較において同様である。また、平成25年度と比較して高く、平成26年度より低くなっている。
- ・「運動が得意・やや得意」と回答した生徒は、全道・全国との比較において低くなっている。また、平成25・26年度との比較においても低くなっている。
- ・「保健体育の授業は楽しい・やや楽しい」と回答した生徒は、全道・全国との比較において低くなっている。また、平成25年度と比較してほぼ同様であり、平成26年度より低くなっている。
- ・「部活動（運動部・地域のスポーツクラブ）等に所属している」と回答した生徒は、全道との比較においてやや低く、全国との比較において低くなっている。

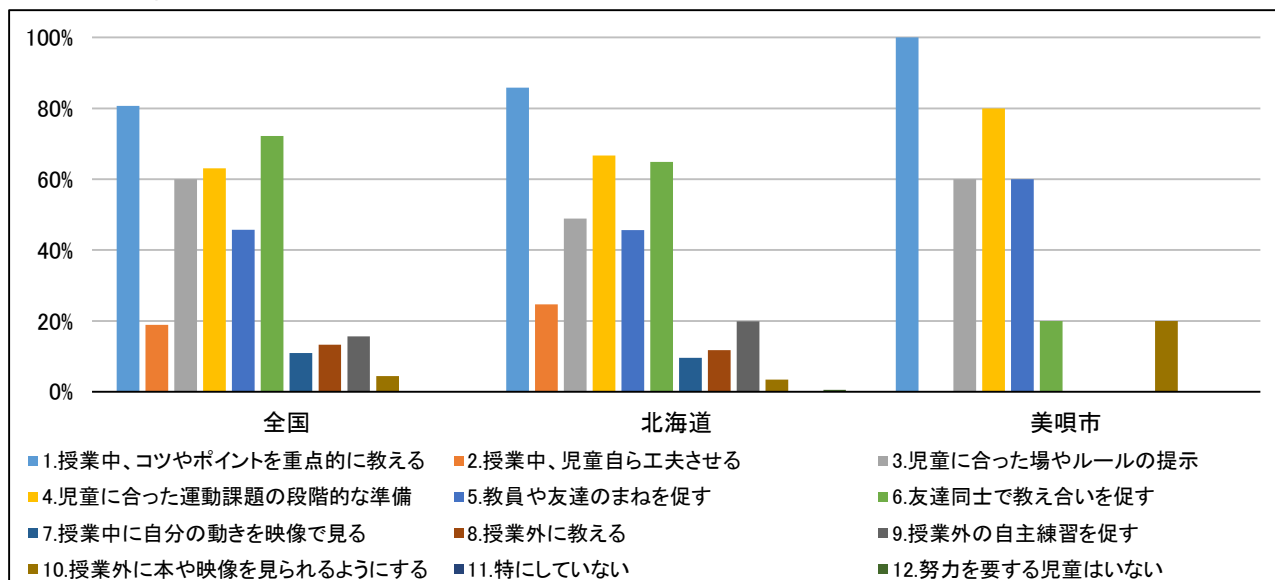
➡「中学校」については、男女共に運動が好き、または得意だという意識がやや下降傾向にある。保健体育の授業を楽しんでいる生徒が、昨年度より減少していることとの関連性も考えられる。部活動等への所属については、男女共に全国に比べて低い状況にあり、その傾向は小学校から継続している。部活動等での活動に限らず、日常的に体を動かす習慣づくりが必要であり、小学校同様、家庭や地域との連携も視野に入れての取組が求められる。進んで身体を動かすことは、体力づくりや運動習慣を育てる大切な要素であり、今後の課題である。

また、「保健体育の授業について、できないことができるようになったきっかけ」として、「授業中、先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」などを挙げており、全道・全国との傾向と類似しているが、「授業中、自分の動きをビデオで見た」という回答が、男女共に群を抜いて高くなっている点が特徴的である。このことから、個に応じたきめ細かな指導や生徒の主体性を育む教材・教具の工夫などについて、教師が日常的に取り組んでいる様子がうかがえる。

5 学校質問紙調査

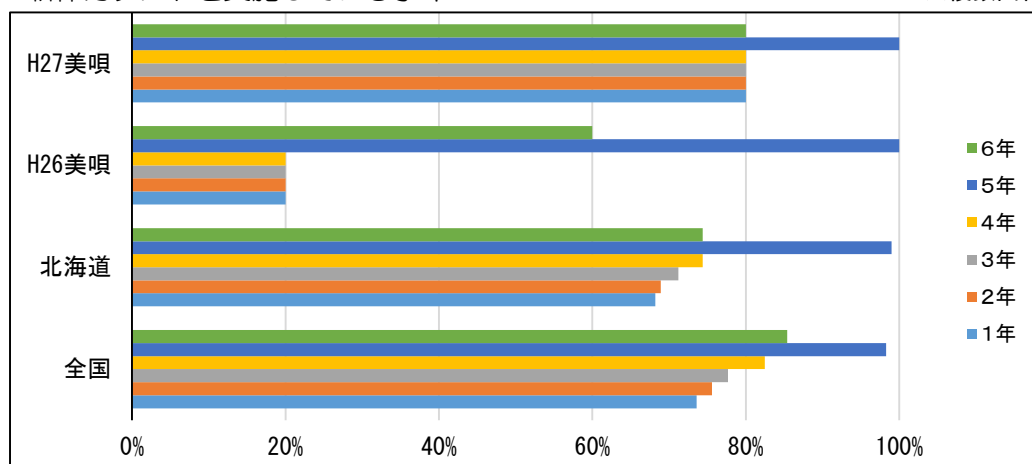
(1) 小 学 校

① 第5学年が受けている体育の授業で、努力を要する児童に対する取組 ※複数回答



② 新体力テストを実施している学年

※複数回答

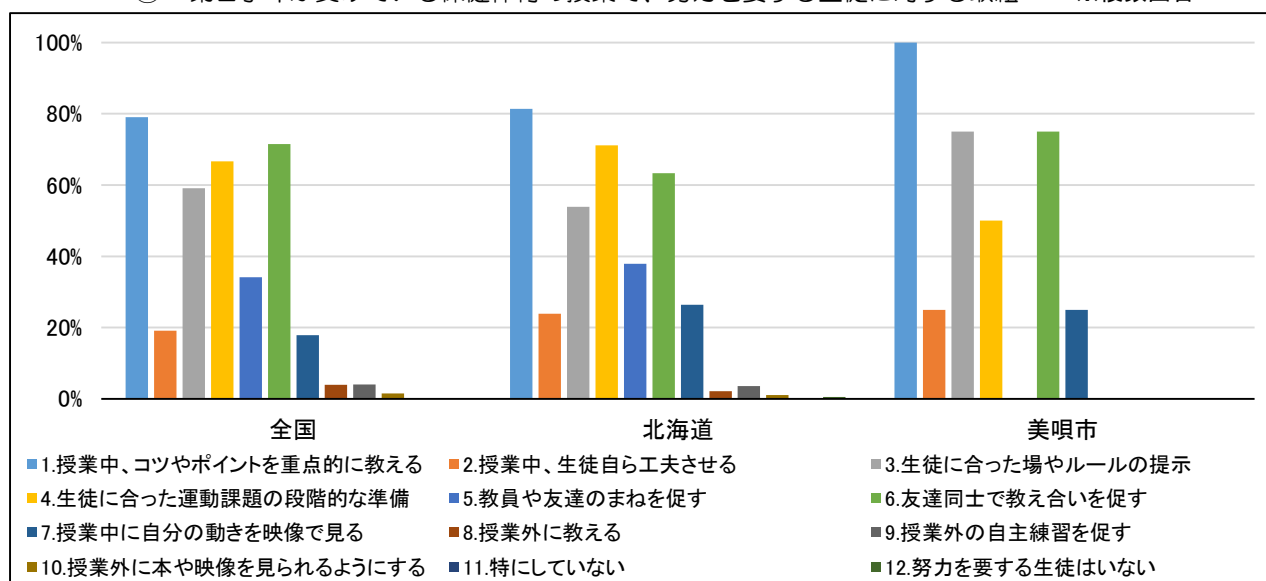


結果の概要

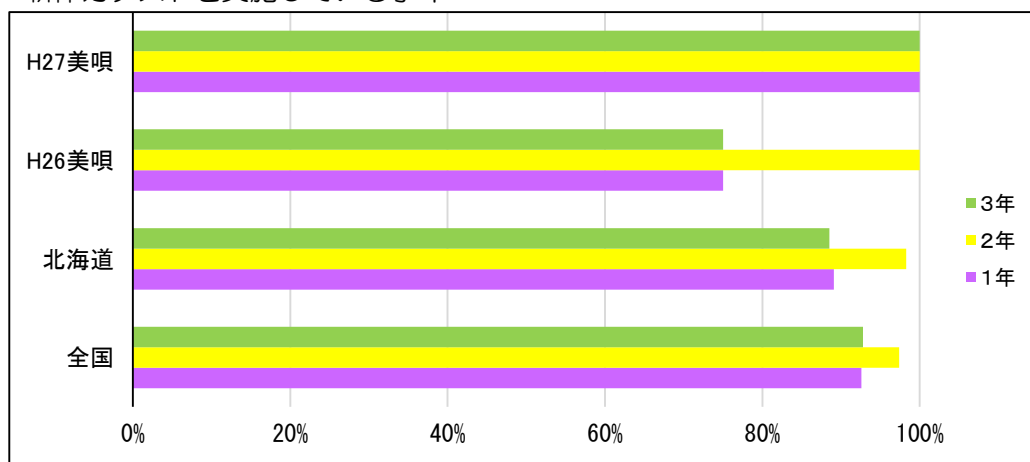
- ・美唄市における「努力を要する児童に対する取組」については、「授業中、コツやポイントを重点的に教える」が一番高かった。また、「児童に合った運動課題の段階的な準備」についても全道・全国の平均値を上回っており、細かな指導段階を踏まえ、児童の能力に応じた指導に努めている様子がうかがえる。今後も、児童の興味や意欲を高めながら、達成感を味合わせる授業づくりに、引き続き取り組む必要がある。
- ・「新体力テストを実施している学年」については、昨年の課題を克服し、飛躍的に実施学年が増えている。小学校低学年から継続して取り組むことにより、今後の成果が期待される。

(2) 中学校

① 第2学年が受けている保健体育の授業で、努力を要する生徒に対する取組 ※複数回答



② 新体力テストを実施している学年



結果の概要

- 美唄市における「努力を要する児童に対する取組」については、小学校同様に「授業中、コツやポイントを重点的に教える」が一番高く 100%に達した。また、「生徒に合った場やルールの設置」が、全道・全国の平均値を上回っており、生徒の能力に応じた指導や主体性を生かした授業づくりに取り組んでいる様子が見える。新体力テストの種目を通して、女子の体力・運動能力に課題が見られることから、今後も、計画的・継続的な指導に、引き続き取り組む必要がある。
- 「新体力テストを実施している学年」については、当初の目標が達成され、全ての学校において全学年が取り組む環境が整った。義務教育9年間を通じた成果が期待される。

6 美唄市の学校・家庭が取り組む方向性

(1) 学校での取組の方向性 (教育委員の学校視察訪問における資料より =抜粋=)

◆ 小学校での実践例

- *「新体力テスト」を全学年で実施する。その結果について係を中心に分析し、今後の方策を示す。
→学年によっては一部種目に留まっている現状もあり、全種目について実施できるよう取り組む。
- *「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果も踏まえ、体育指導の改善・充実に努める。
→分析結果を保護者に伝え、課題の共有と解決に向けた協力をお願いする。
- *「一校一実践」の充実にめざし、放課後運動の機会を増加する。
→縄跳集会、全校遊び、フットゴルフ、パークゴルフ、一輪車、ケンパ選手権、トレーニングラダーなどの実施と、それに伴う運動環境の整備を図りながら、運動習慣づくりに取り組む。
- *体力増進に係る個人目標の設定と実践を促進し、体力づくりの意識化と浸透を図る。
→身長、メートル走、幅跳び、ソフトボール投げ等を実施し、その記録を6年間蓄積する。
- *PTAと協力して家庭での体力・健康調査を実施する。また、子ども育成会の行事等と連動し、「地域の活動」としての取組を検討する。
- *自校の特色ある取組の計画・推進や「どさん子元気アップチャレンジ」への参加を検討する。

◆ 中学校での実践例

- *美唄市が行う「チャレンジデー」へ参加し、体力増進を図る機会とする。
- *全学年の新体力テストの実施と、その・分析に基づく授業改善に取り組む。
→達成目標を具体的に示し、数値目標を立てて実践する。
→生徒が自主的に活動する指導の在り方について検討する。
→保健体育の授業の中で、継続的に筋ストレッチを取り入れていく。
- *個人差に応じた意欲を高める体育指導の工夫と運動量の確保に努めるとともに、登下校の徒歩・自転車通学を励行する。
- *現在、一定期間に限られた活動が主になっており、年間を通した運動習慣づくりについて検討する。
→校内の陸上記録会や球技大会を軸にして、その練習期間を含め、運動に親しむ意識の醸成を図る。
- *運動系部活動に所属する生徒とそれ以外の生徒との体力の二極化について検討を要する。
→運動系部活動への参加を奨励する。
→一部活動加入率が8割近く、運動系の部活動では体力向上が図られている。文化系部活動の生徒や部活に加入していない生徒の体力向上には授業での工夫が大切である。その意味においてダンス教材は効果的と考えており、今後も継続した取組を進める。
- *「どさん子元気アップチャレンジ」への積極的な参加を促す。

(2) 家庭での取組の方向性 (美唄市PTA連合会での研修より =抜粋=)

- 「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底と、親子で一緒に食事する習慣化を図る。
- 何よりも生活習慣の確立が大切である。除雪などの手伝いとともに、親子でスポーツに取り組む。
- ネット社会の中であって、いかに外遊びを奨励できるかがカギである。
- PTA活動で運動型の行事を増やすとともに、食育について学ぶ機会を設ける。
- 運動習慣の欠如が健康や精神に与える影響について親子で研修する。
- 美唄市はスポーツの盛んな地域であり運動に親しむ素地はあることから、学校と家庭・地域の連携が大切である。
- 夏休みは、ラジオ体操の機会があると良い。
- キッズ・アスリートなどの行事への参加を奨励する。
- 体力等の調査結果は継続することによって高められる。体力増進を図ることで健やかな体づくりにつながることを併せて教えていくことが大人の努めである。